

(2) 下伊那郡 豊丘村

(新設した「道の駅」を活用した拠点形成によるコミュニティビジネス展開例)

① 取組のきっかけ

豊丘村では、急激な人口減少と高齢化の進展や、農業従事者の減少と高齢化による耕作放棄地の拡大等による地域存続の危機感から、村が住民と検討し、リニア新幹線開業を見据えた6次産業化の検討を始めました。

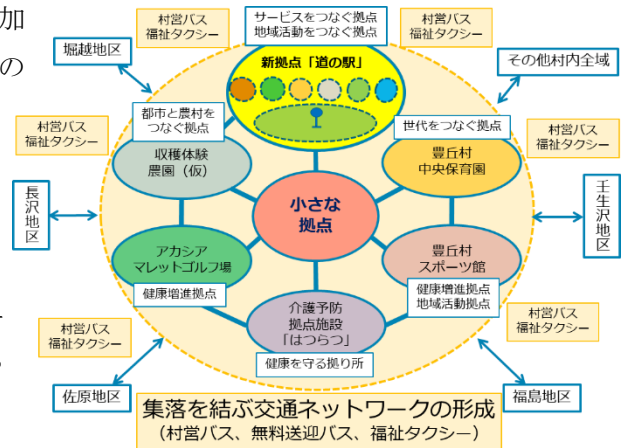
② 取組の経過

平成24年(2012年)に「6次産業化プロジェクトチーム」を立ち上げ、6次産業化に関する検討を始めました。(チーム構成:住民、農家、商工会、JA、豊丘村)

どのような機能を持たせるかについては、当初は加工施設を備えた直売所を想定していましたが、村内の観光拠点としての活用や認知度の向上といった観点から道の駅として整備することが決定。「6次産業化プロジェクトチーム」を発展させる形で「道の駅開設準備委員会」が発足し、以下のとおり村内の交通結節点としての機能や生活サービス機能を加えた「小さな拠点」として整備することとなりました。



(図1 道の駅を中心とした小さな拠点形成イメージ)



(図2 道の駅を中心とした交通ネットワーク形成イメージ)

【主な機能とエリア】

○ 日常生活を支える機能	⇒ スーパー (買い物弱者対策のための自社バスを運行)
○ 少子高齢社会を支える機能	⇒ 保育所、介護予防施設、コミュニティバスの結節点
○ 6次産業化、交流・活性化を支える機能	⇒ 加工施設を備えた直売所・レストラン

<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活を支える機能の集約が可能な場所 ○ 村内交通の結節点 ○ 村役場周辺で飯田市に近い場所 (リニア開業を見据え) 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村役場周辺で飯田市に近いエリア ・ 近隣に保育所、介護予防施設あり ・ 高森町や喬木村とのアクセスも良い場所
---	---	--

道の駅整備にあたり、本格的な整備を行う前に道の駅の「支配人」を全国から公募しました。その結果、関東在住の元ホテルマンが就任し、構成や動線を綿密に設計。支配人は一家で豊丘村に移住し、住民の方々に対し丁寧に意見を聞いて回ったそうです。

また、道の駅の設計が進む中で、送迎サービスの実施による買い物支援を行っている地元スーパーを道の駅に移転する案が浮上し、スーパー側も了承。道の駅には珍しい地域密着型スーパー併設型の道の駅建設が進むこととなりました。

③ 今後の予定

拠点となる道の駅開業に向けて、運営主体として住民と村との出資からなる第3セクター「株式会社 豊かな丘」を設立しました。今後は社員約50名が運営を担う予定です。

なお、株式会社化にあたり、国の「小さな拠点税制（※1）」の活用を目指しており、豊丘村は税制を活用する旨を記載した「地域再生計画（※2）」の全国第1号として注目を集めています。

また、交通ネットワークの確保については、地元スーパーが実施している送迎サービスに加え、村営バスの運行を行うことで、民間活力と村営バスとの合わせ技による交通ネットワークの強化や買い物支援対策の強化が期待されています。

今後は、周辺施設とのさらなる連携など、「小さな拠点」としての体制整備について本格的に検討がされていく予定です。

（※1）小さな拠点の形成に資する事業を行う株式会社に対し出資を行う者に所得税の控除を行うもの。

（※2）地域再生計画とは、地域が行う自主的かつ自立的な取組を国が支援する制度である地域再生制度の活用の際に、各地方公共団体の計画を記載したもの。地方公共団体は、地域再生計画を作成し、内閣総理大臣の認定を受けることで、当該地域再生計画に記載した事業の実施に当たり、財政、金融等の支援措置を活用することができる。

【ヒアリング実施日：平成29年(2017年)12月19日、場所：豊丘村役場】